



私のひとりごと

ゆとりある人生

「あ〜ッ!!」大工さんが、顔色を変えて飛び跳ねる。それも一度ならず二度三度。

これは片田舎にあるリフォーム現場での出来事。家の周りは畑があり、田舎らしい自給自足の生活である。ところが近年、畑に猿が出没し、食べ頃の野菜を一歩手前で収穫してしまう。その対策として、家の周囲には電柵が張りめぐらせてある。ところが、今回の現場は家と畑の間が狭いため、車を止めると電柵との隙間はわずか60センチ程。もうお解かりだとは思いますが、大工さんが道具を取りに行く度に、この電柵に触れ感電するのである。この時期シャツ1枚で、しかも汗だくなので電気が流れるにはこの上ない好条件なのだ。



大工さんをそれとなく観察していると、一日に何度も車まで道具を取りに走る。2階から別の大工さんに色んな道具を持って来るよう急かされ、一心不乱に仕事をする彼の頭からは、もはや電柵の件は抜けていると思われる。両手に道具を持ち小走りに走ろうとした瞬間、また感電している。その顔は、安木節で付ける“ひょっこ”のおどけたお面が、そのままびっくりした顔になったと想像していただこう。畑に忍び入る猿でも1、2度で学習すると思われるが…。とりあえず、遠目でクスリと苦笑いするしかない…。ただし、大工さんの名誉の為に言っておきますが、この方はとても人柄が良く、お客様からの信頼度はNo.1である。これも人柄の良さがなせる、良い意味で「匠の技」ではなからうか？

話は変わり、先日、長野県茅野市へ出かけた。住宅経営の勉強会である。茅野市には多くの人が師と仰ぐカリスマ的存在の工務店経営者が居て、私も一度は会ってみたいと願っていたが、ようやくその機会が巡ってきた。自宅から茅野市までは、片道5時間半。その日、名古屋から長野に向かう電車内は、多くの登山客で混雑していた。しかも大半が私と同年代か、もしくは年上と思われる人達ばかりである。その笑顔からは人生を楽しんでいる余裕が伺え、実にうらやましい限りである。そこへいくと私はどうだろう…。今日も早朝から電車に飛び乗り、ホッと胸を撫で下ろした直後、今度は仕事先から鳴り響く電話。おかげで、デッキと座席を行ったり来たり。お昼すぎに茅野駅に着くが、会場までの移動時間を考えれば、5分足らずの余裕しかない。腹が減ってはと駅の立ち食いソバを注文すれば、汁は熱々。美味しかったが熱すぎて完食する時間もなく、未練を残しつつ会場へ。そこから約4時間の勉強会でグッタリするも、帰りの電車にせかされ、飛び乗った車内は無常にも大混雑。おかげで弁当の移動販売も中止。乗り継ぎの僅かな時間に缶コーヒーとパンで胃袋を満たし、ハトハトになりながら深夜23時ようやく敦賀駅に到着。自宅への帰り道で立ち寄った某牛丼チェーン店にて、本日初めての食事らしい食事を頂く。

ふと、今日の電車内を思い返すと、こんな慌しい一日を過ごす自分と、ゆとりある笑顔で登山を楽しむ人たち…。もしかしたら、自分にもあんな人生があったのだろうか？
考えても仕方のない話だが、せめて気持ちの上だけでも“ゆとりある人生”を送りたいと願う今日この頃である。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう
ございました!!

